

第55回

日本PTA東北ブロック研究大会 富谷黒川大会

期日：令和5年10月14日(土)・15日(日)
場所：宮城県富谷市・大和町・大郷町・大衡村 5会場



「東北一心 新たな時代へ一期一笑」未来を切り開け！持続可能な地域づくり・PTAづくり」を大会スローガンに、宮城県4市町村5会場で東北ブロック研究大会が開催されました。

岩手県からも各市町村から69名が参加し、多くの学びとたくさんの方の仲間づくりの2日間となりました。

大会1日目は、パネルディスカッションを中心とした5つの分科会での学びの場となりました。またこの日の夜に、希望者を対象として岩手県からの参加者の夕食会を兼ねた「分科会報告会」を開催し、市町村を越えてのたくさんの方の情報交換と仲間づくりの場となりました。

大会2日目の全体会では、東北ブロックP

第55回 日本PTA東北ブロック研究大会 第72回 宮城県PTA研究大会 富谷黒川大会



TA協議会長表彰に引き続き、元パドミントンオリンピック金メダリストの高橋礼華さんによる記念講演が行われました。

来年度の東北ブロック研究大会は、令和6年9月7日(土)・8日(日)に青森県青森市・平内町で行われます。

東北大会に参加して

初めての東北大会への参加でしたが、非常に学びのある時間となりました。アトラク

ション、第一分科会の講演の内容、ともに行政と地域の密な連携を感じましたし、そこにスピード感も感じられました。

富谷市は「子どもにもやさしいまちづくり実践自治体」として国内で最初に承認されたこともあり、地域の子どものたちと大人のつながりの作り方が非常に上手いというのが第一印象で、コロナ禍で抑圧され閉鎖的な環境から子どもたちを導くのはやはりかっこいい大人たちなのだ改めて感じさせられました。子どもはこの背中を見て育ちます。大会の



テーマが、東北一心 新たな時代へ 一期一笑く未来を切り開け！持続可能な地域づくり・PTAづくり」ということで、まさにこのテーマを体現している取り組みがここ富谷・黒川では行われているのだなと感銘を受けました。元バドミントン選手の高橋



礼華さんの記念講演もアナウンサーの方とのトーク形式で非常に聴きやすく、子どもとの向き合い方や親として出来ることのヒントが取りばめられた貴重な内容でした。一大人として、一親として、まだまだ出来ることが多いのだなと前向きなビジョンにもつながる素晴らしい大会でした。

花巻北中

佐藤淳美

(県P連母親委員)

第2分科会に参加させて頂きました。子供がつまずく瞬間こそが成長の兆しであり、すぐには手を貸さず、自分自身で立ち上がることを見守ることも大事であると、親たちの意識改革が必要だと感じました。又、理解がある子が教える



ることはおせっかいになってしまうこともあり、逆にわからない子が教えてこそ学び合いに繋がっていく。私もついでに手助けや口を出してしまいがちになっている。子供

達だけでなく大人にも言えることだと、考えるいい機会になりました。学校全体で子供たちを支え、共に成長していく姿勢が鮮明に伝わりました。この大会を通じて、教育において協力と理解の大切さを再認識させられる貴重な機会でした。

猪川小 金野貴博

(県P連副会長)

第3分科会「地域連携（協働教育）」へ参加させて頂いた頂きました。基調講演は『地域連携とPTA』とし、地域づくり・社会教育・地域福祉・人権教育等でご尽力されている廣瀬隆人氏でした。

少子化に伴いPTA会員数が減少している現在「昔からのやり方」や「今まで通り」を続けることは難しく大変な事も多く「やらされてる感」やPTA組織自体の批判となっている。PTA役員と会員の負担や不満を軽減、解消できるようなSNSやアプリ等利用したり、作業のスリム化や人員数の削減など時代に合わせて見直ししながら「子ども達のために」保護者も楽しく気軽に活動出来る組織づく



りをしていくことが必要だと強く感じました。パネルディスカッションでは地域との関わりの実践発表をもとに地域の行事や活動が地域コミュニティには欠かせないこと、子どもの健全育成にも必要であること等ディスカッションされました。『良い学校は良い地域にか存在しない』『地域の良質な大人と子どもを合わせる』が強く心に残りました。それを念頭に置きPTAとして活動し、また卒業後は地域の人の支として支援していきたいと思っています。

上田中 山口真樹

(県P連母親委員長・副会長)